

令和2年度第2回北海道森林管理局保護林管理委員会資料

# 狩場山周辺の保護林拡充について

- 拡充範囲案の検討
- 地帯区分の検討

北海道森林管理局

(受託者：株式会社さっぽろ自然調査館)

# 事業の目的と経緯について

- ◆ 狩場山地周辺はブナの北限地帯、まとまった形で原始的な天然林が分布
- ◆ 平成30年度から森林生態系保護地域の拡充について検討

## ◆ 令和元年7～8月

広域データ収集とGISによる整理  
現地調査と過去の調査データの整理

## ◆ 令和元年9月～10月

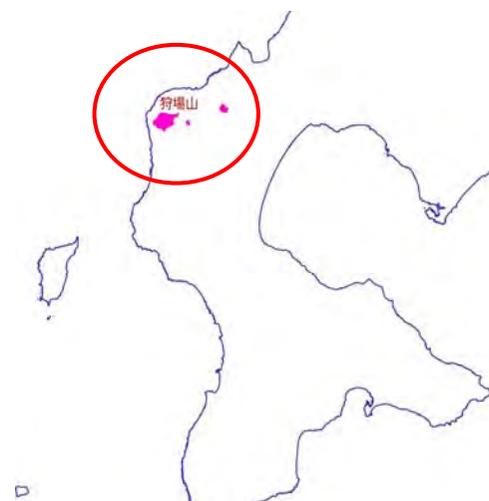
現地検討会、委員会での報告と意見聴取  
現地調査・分析の追加実施

## ◆ 令和2年3月

書面開催での委員会での報告

## ◆ 令和2年6～8月

現地調査の追加実施  
森林・希少植物・クマタカ



令和2年度第1回委員会  
追加調査・分析結果の報告  
保護林区域の検討案

令和2年度第2回委員会  
保護林区域の修正案  
地帯区分の検討案

## 第1回委員会(11/4)での委員からの意見

- カニカン岳と長万部岳周辺は、希少種が今の段階では未確認でも生育している可能性はかなり高いため、ポテンシャルで評価して範囲に入れるべきである。
- カニカン岳と長万部岳周辺は、それなりにブナが分布している地域であり、そういった観点から広めに保護していくという考え方で良い。
- 美利河・二股自然休養林周辺もブナの材積が高く、クマゲラ・クマタカのポテンシャルマップが高いので広げて検討すべきである。
- 泊川源流部分が奥まで除外されていることにより狩場山周辺と大平山周辺の間が細い形状になっており、国際的に評価されにくい。できるだけ円形に近い形状にすることが評価を上げる。
- 細い内部で保存地区と保全利用地区を設けるのは無理がある。

自然維持タイプを中心に区域の拡大を検討する。

# 第1回委員会の区域案

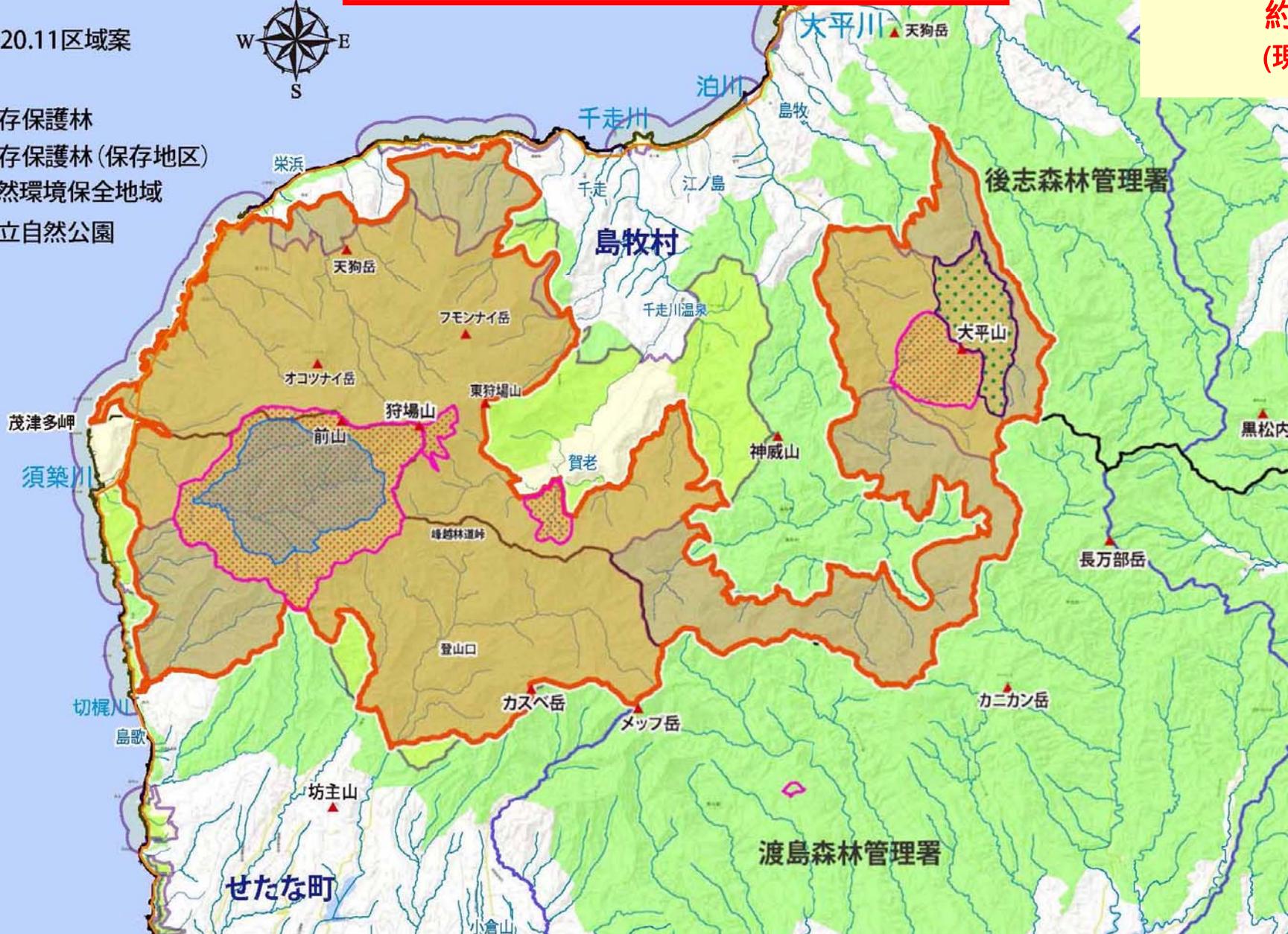
第1回委員会案

約25,200ha  
(現在3,500ha)



2020.11区域案

- 既存保護林
- 既存保護林(保存地区)
- 自然環境保全地域
- 道立自然公園



# 新区域案



## 第1回委員会案

約25,200ha  
(現在3,500ha)

委員会での意見を  
踏まえて調整

約33,800ha

## 区域案の地帯区分

保存地区

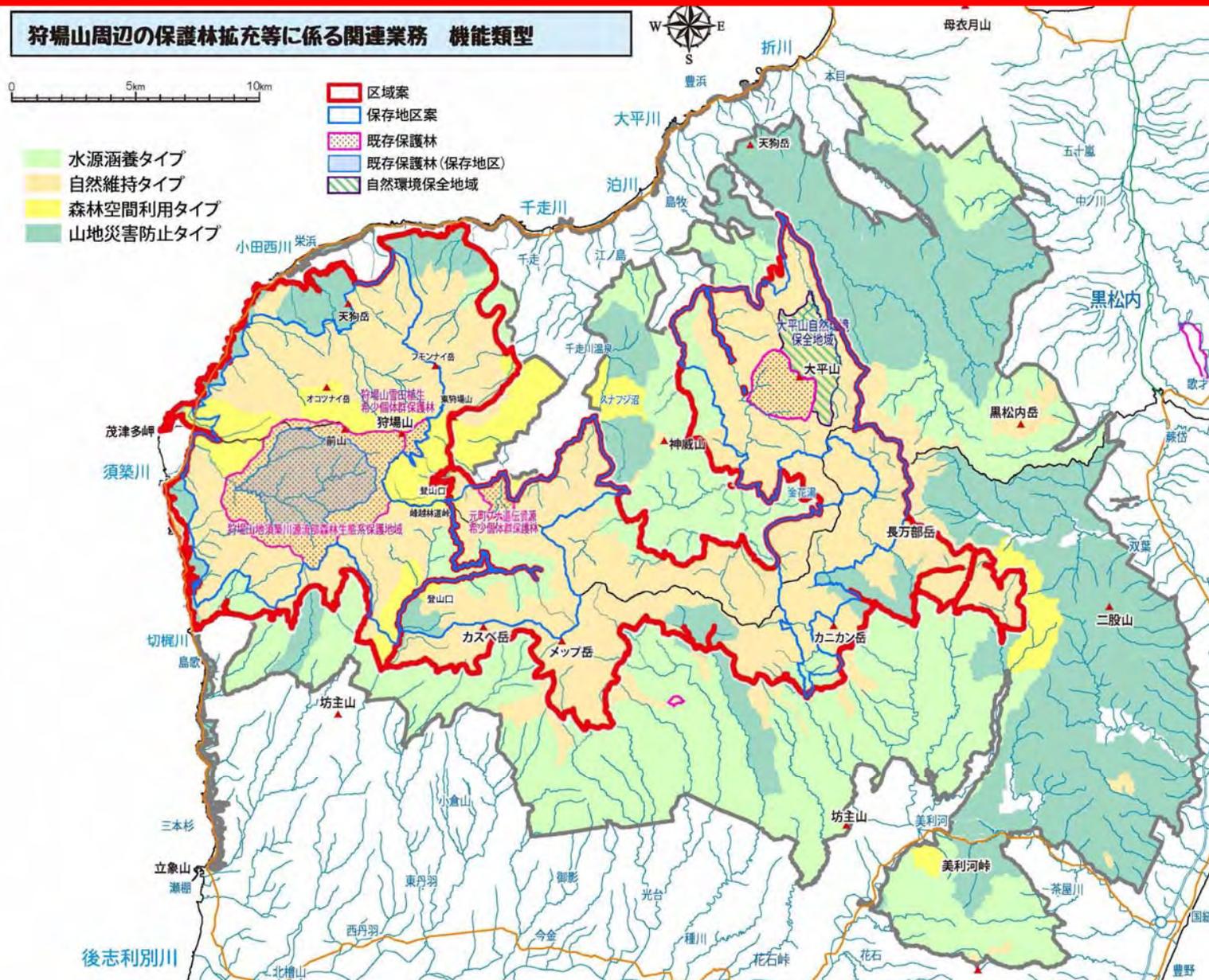
約13,800ha

保全利用地区

約20,000ha

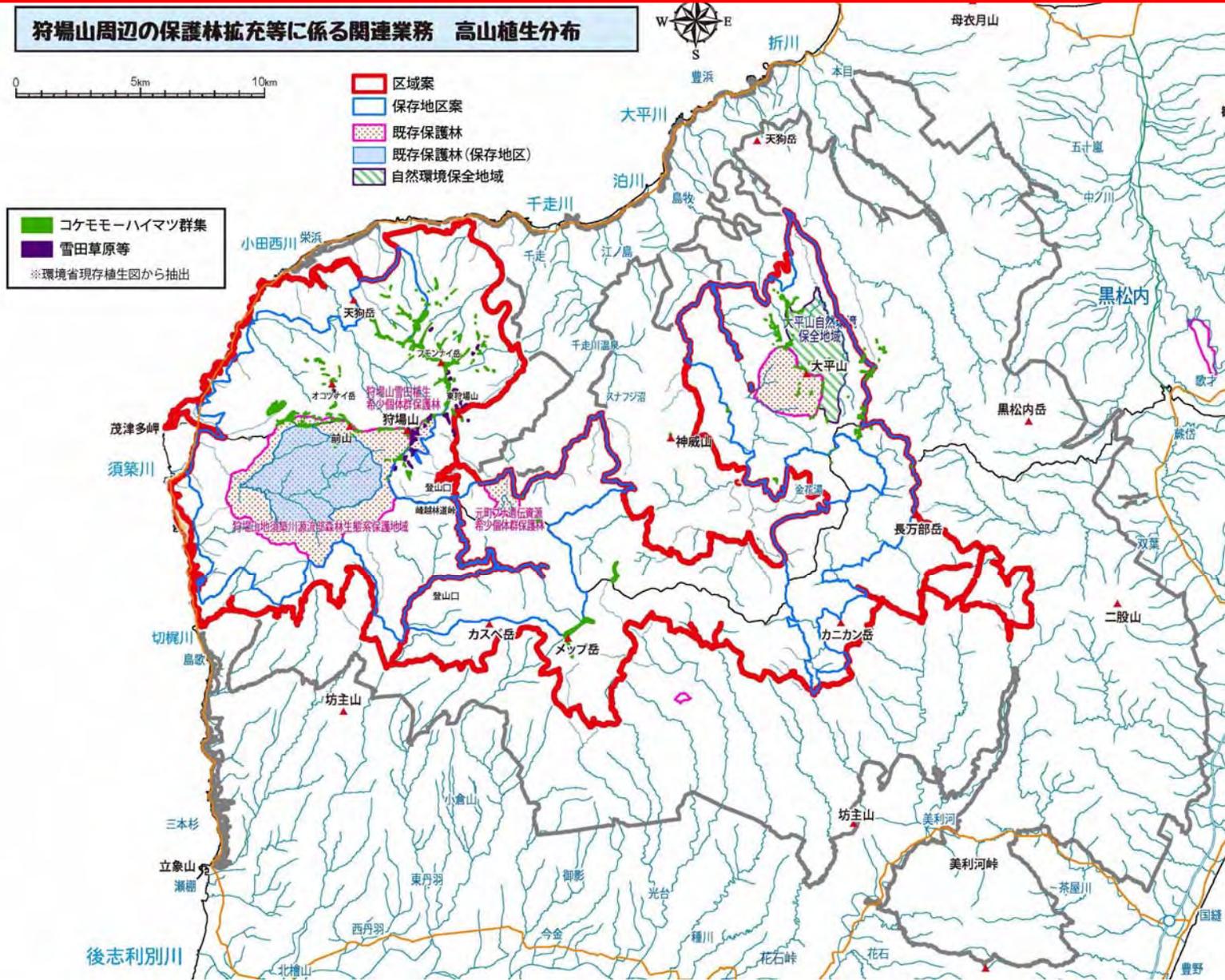
# 機能類型との対応

狩場山周辺の保護林拡充等に係る関連業務 機能類型





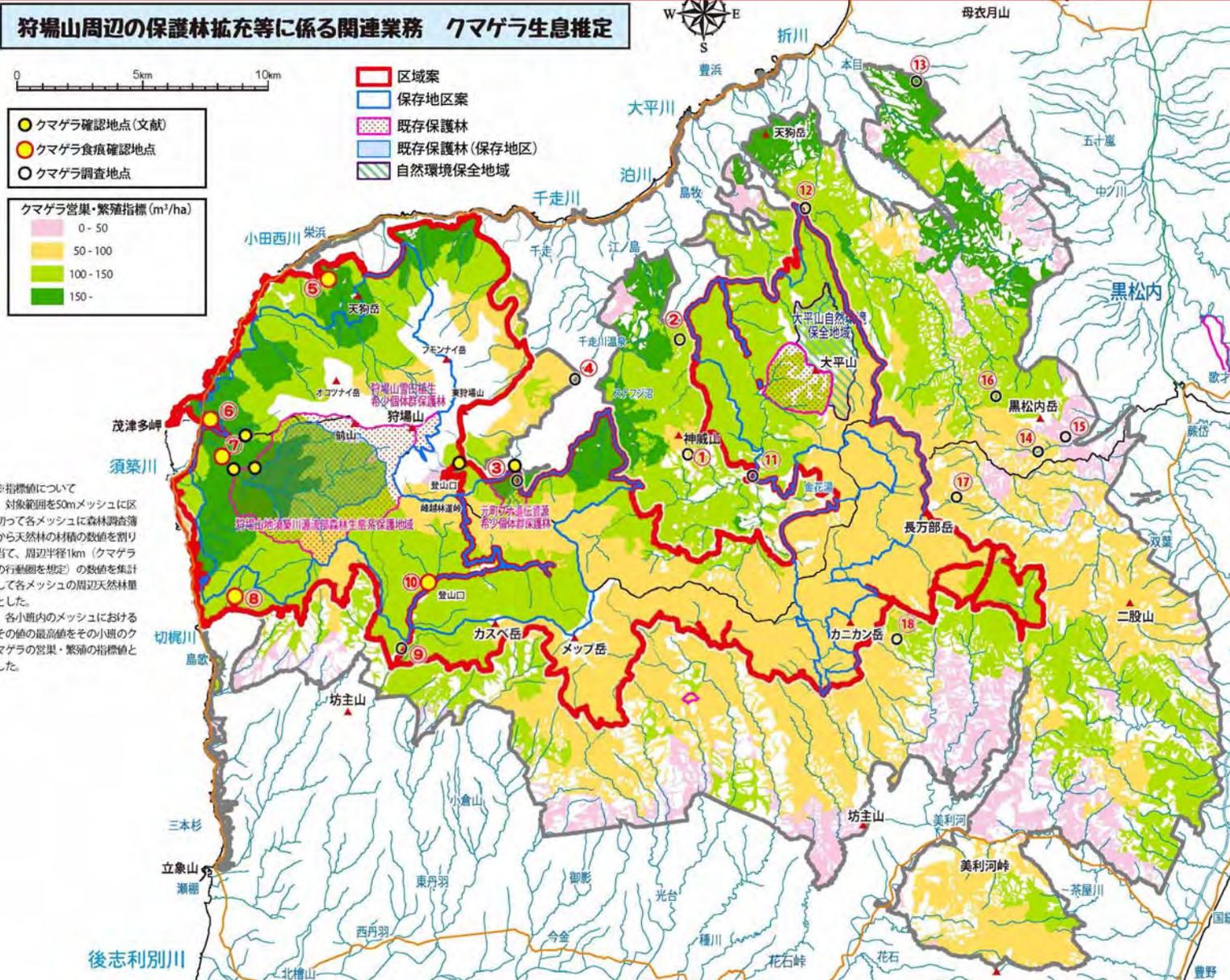
# 重要な要素のポテンシャル分布との対応 高山植生



## 重要な要素のポテンシャル分布との対応 クマタカ

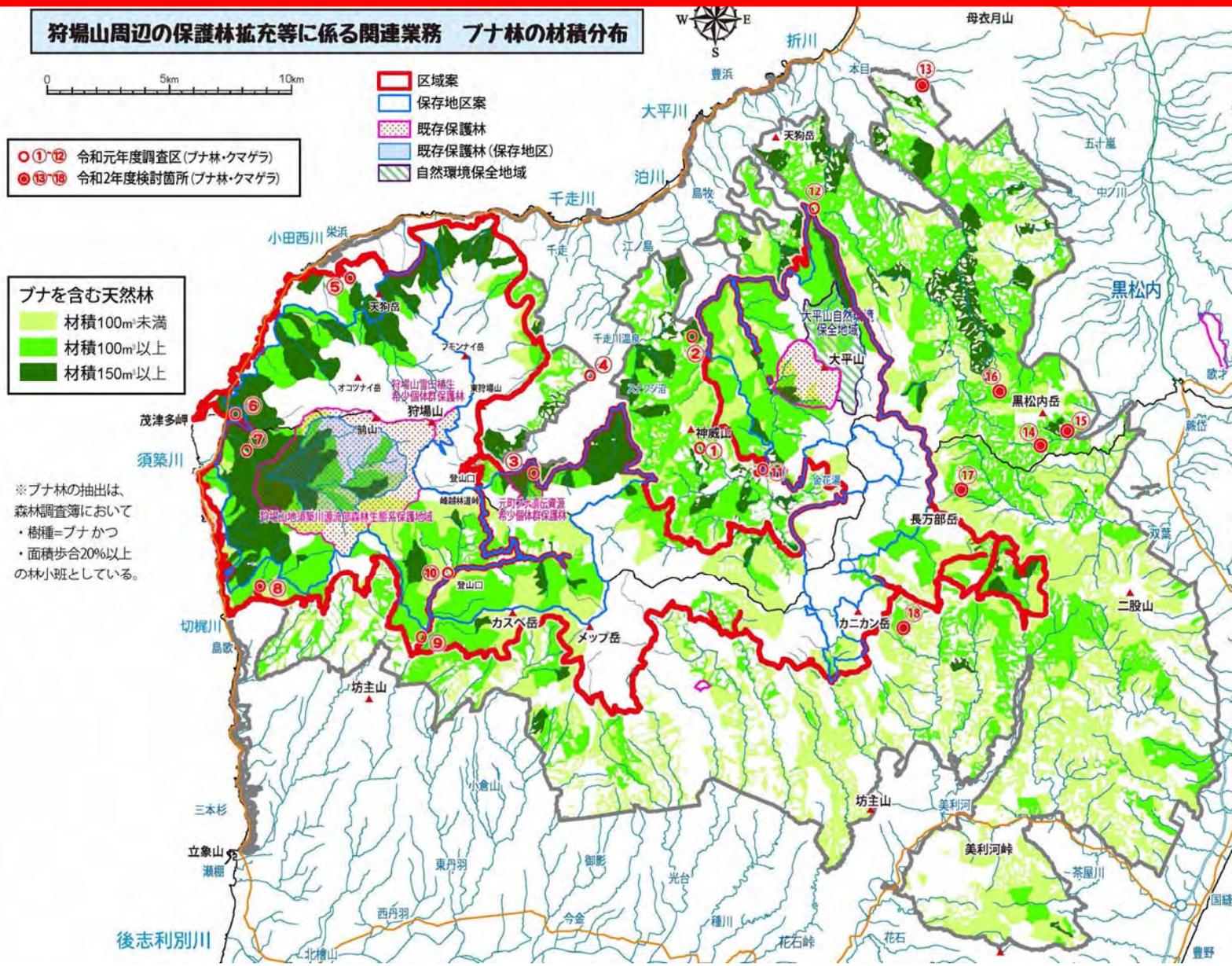
希少種情報が含まれるため非公表

# 重要な要素のポテンシャル分布との対応 クマゲラ

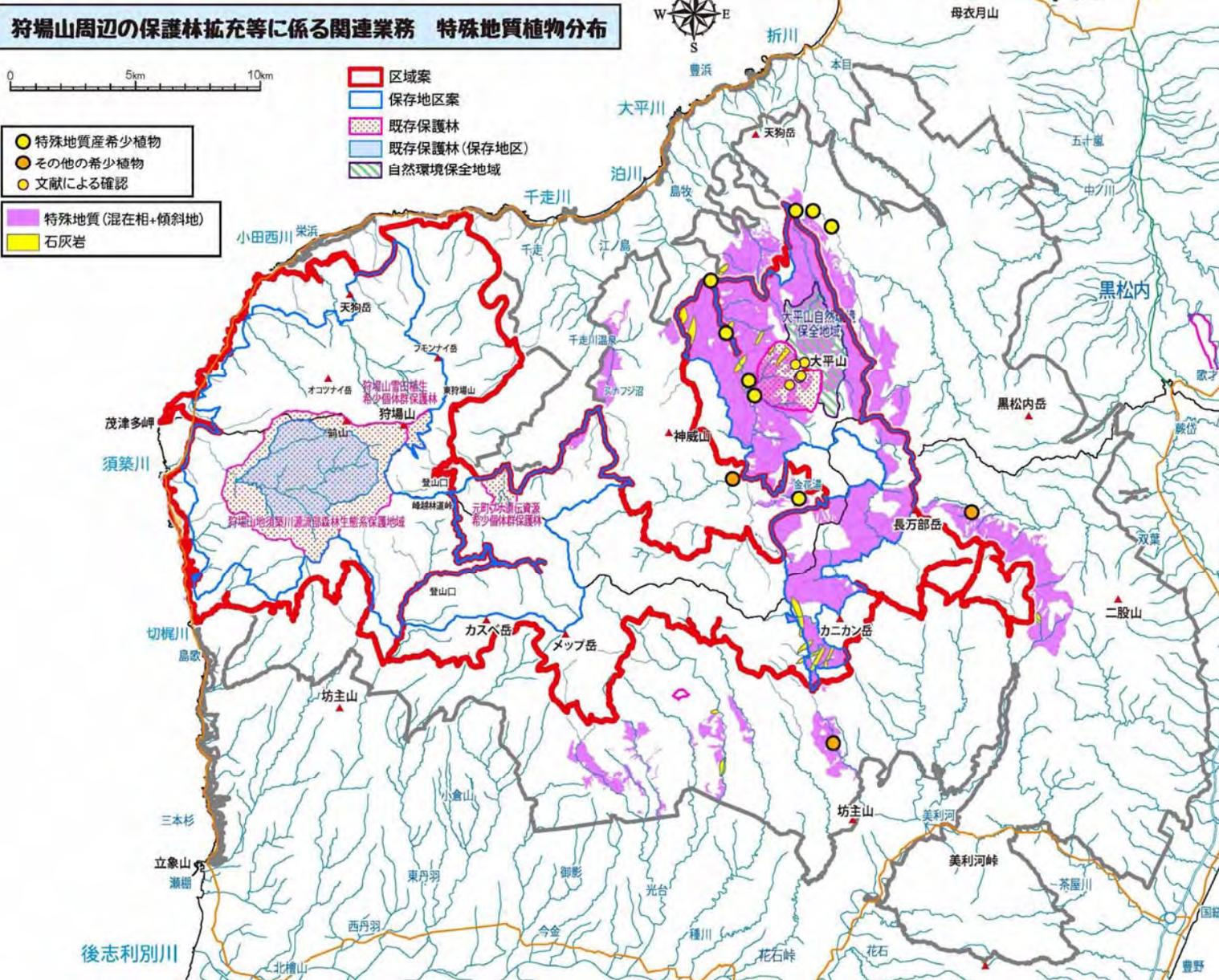


# 重要な要素のポテンシャル分布との対応 ブナ林

狩場山周辺の保護林拡充等に係る関連業務 ブナ林の材積分布



# 重要な要素のポテンシャル分布との対応 特殊地質植物



# 重要な要素のポテンシャル分布との対応 河川周辺環境

